

訪問看護の小部屋

令和3年度

神奈川県訪問看護ステーション協議会 広報委員会

はじめに・・・

今回の訪問看護の小部屋では、「訪問看護師を目指したきっかけ」を紹介します！

皆さん、どのような思いで訪問看護師を目指されましたか？

初心を思い出してみてもいいのではないでしょうか。



これから訪問看護を目指す方は、参考にしてみてください。

CASE①

急性期病院では治療の補助に従事し、回復する患者に関われることがやりがいでした。

その一方で、治療がうまくいかず自宅に帰れない方を多くみてきて疑問を感じることもありました。

そこで健康寿命を伸ばすことを目的とした行政の保健事業で働くようになり、さらに地域で暮らす人々を対象に直接支援する『訪問看護師』に魅力を感じました。病院では「病気を治すこと」が第一の目標でした。でも訪問看護は「本人・家族の望む生活を支援すること」が目的にあり、本人の希望が第一優先されます。「治癒」が目標ではないことが病院と在宅の大きな違いで、日常生活の中の一部ですが生活者をサポートできることに、やりがいを感じています。

(横三地区 40代 看護師歴20年/訪問看護師歴5年)



CASE②

病院から退院された方が、その人らしい日常を取り戻してほしいと思ったことが、訪問看護師を目指したきっかけになります。

家族、本人の精神的・身体的・社会的困難への支援をし、当たり前の日常が送れるように支えになればと思います。

(西湘地区 40代 看護師歴15年／訪問看護師歴2年)



CASE③

私は総合病院の病棟勤務をする中で、癌の終末期患者様と多く接し、人生の最期は住み慣れた家で家族と過ごしたい、やり残した事をするために帰りたいなどの思いを抱えながら、それを叶える事が出来ずに亡くなっていく患者様をみる機会が多く、自分の中で疑問を感じるようになり、人生の最期をその人らしく過ごす事を支援したいと強く思うようになり、訪問看護師になる事を決めました。

(横三地区 30代 看護師歴13年／訪問看護師歴3年)





CASE④

病院勤務をしていたある日、ステーション立ち上げのヘルプに行ってほしいといわれ、6か月の予定で初めて訪問看護に関わることになりました。

2回目のオンコールで自宅看取りに立ち会うことになり、元々ホスピスナースになりたかった自分にとって看取りの場面にまた関わりたいと思ったこと、また訪問中のご利用者マンツーマンで関わることができ、看護の本質がそこにあるのではと感じたことから、正式に訪問看護師となることを決めました。

(川崎地区 40代 看護師歴24年／訪問看護師歴5年)



CASE⑤

数年間の病院勤務をもとに、一人一人の患者様やそのご家族様との時間を大切に、ライフスタイルに寄り添った継続的な看護をしたいと思い、訪問看護に興味を持ちました。

その人らしさを引き出せる看護を目指していきたいです。

(県央地区 40代 訪問看護師歴2年)

おわりに...

看護の小部屋では今後も皆さんからの「こんな工夫をしているよ」「こんな情報があるよ」など、皆さんの業務に少しでも役立てられるような情報発信ができればと考えております

ご意見、ご感想含め《ホームページ「ご相談・お問合せ」》から情報をぜひお願いいたします

※お問い合わせ内容には
「小部屋」とお書きください